

評価機構

2016

9

月号

NEWS LETTER

特集

病院機能評価事業

医療の質改善を促進させるための個への「教育」
現状と今後の展望

—医療クオリティ マネジャー養成セミナー修了者の活躍—

Topics
Information



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care

病院機能評価事業 医療の質改善を促進させるための個への「教育」 現状と今後の展望

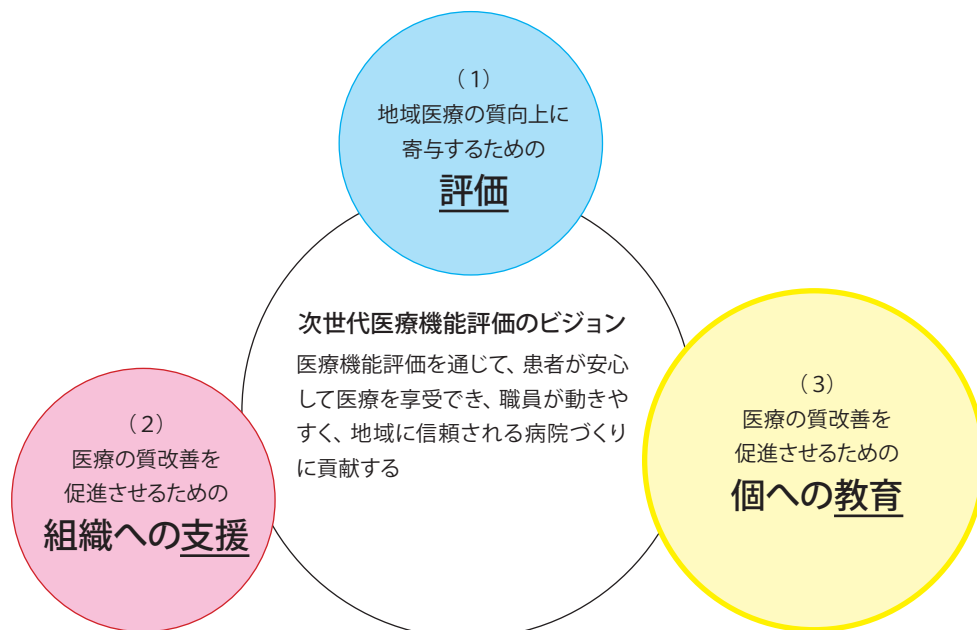
評価事業推進部 部長
遠矢 雅史

1. 「個への教育」の全体像

病院機能評価事業では、医療を取り巻く環境の変化に対して、「医療機能評価を通じて、患者が安心して医療を享受でき、職員が働きやすく、地域に信頼される病院づくりに貢献する。」という次世代医療機能評価のビジョン達成に向けて、(1) 地域医療の質向上に寄与するための評価、(2) 医療の質改善を促進させるための組織への支援、(3) 医療の質改善を促進させるための個への教育、の3本を柱として、総合的に医療機能の評価等に関する事業を推進しています。

評価事業推進部教育研修課では、医療の質改善を促進させるためには、組織全体への支援のみならず、その組織に所属する個人が必要に応じて適切な教育プログラムを選択でき、それぞれの環境や立場に応じて能力を発揮できるような教育を提供できるよう環境整備を強化しています。

現在は、院内の質改善活動を推進するための「医療クオリティ マネジャー」と、患者・家族と医療者との橋渡し役となる「医療対話推進者」の養成を病院の中間層や現場職員を対象に開催しています。今年度は、医療安全管理者等を対象とした医療安全アドバンスコース（仮称）および、副院長等を対象とした病院管理者向けのセミナーの新設を予定しています。



2. 医療クオリティ マネジャー養成セミナー

病院が組織として、良質な医療を自律的かつ継続的に提供するための支援として、院内における質改善活動の中心となる人材“医療クオリティ マネジャー”の養成を行っています。本セミナーは、医療クオリティ マネジャーとして、組織横断的に多職種で協働するためのリーダーシップやマネジメントスキル、医療の質に関する評価・分析を行う知識とスキル、質改善活動を定着させるための教育研修方法など、4日間の講義とグループワークで構成されたプログラムです。

養成を開始した平成24年度から現在まで、4年間で545名（363施設）の修了者がいます。今後は、修了者の継続した学習を支援するために学習の場を充実させると同時に、認定・更新制度の導入等を検討していきます。



【修了者実績】（平成28年3月時点）

H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	合計
54名	166名	182名	143名	545名



3. 医療対話推進者養成セミナー

患者・家族と医療機関の職員の間で生じた様々な問題等について、対話を通じて協働的かつ柔軟に解決していこうとする「医療コンフリクト・マネジメント」という考え方をもとに、両者の円滑な対話関係の構築に向けて、「医療メディエーション」のスキル習得を目的に、平成16年度より「医療コンフリクト・マネジメントセミナー」という名称で本セミナーが開始されました。その後、平成25年1月に厚生労働省医政局より送付された「医療対話推進者の業務指針及び養成のための研修プログラム作成指針」に準拠した内容に改定し、平成25年度より現在の名称に変更しました。

本セミナーは、座学中心の「導入編（1日）」とグループワーク・ロールプレイを中心とした「基礎編（2日）」の二部構成（計3日間）のプログラムとしています。

現在では、名称を変更した平成25年度から3年間で1,089名の修了者がいます。平成27年度より認定・更新制度を導入・開始し、修了者へ継続的に学習支援を行っています。



【修了者実績】（平成28年3月時点）

H25年度	H26年度	H27年度	合計
442名	310名	337名	1,089名

4. 継続的な学習

セミナーの効果的な受講と修了者の継続的な学習を目的に、各セミナーの修了者を対象とした継続研修や、eラーニングによる学習支援を行っています。継続的な質改善のための基礎知識の学習から、より実践的に学ぶための応用プログラム、さらには修了者同士の情報共有（交流）の機会など、様々な形でセミナー修了者の病院での活動を支援しています。

継続研修やeラーニングでは、セミナー修了者が継続的な学びにより興味を持って頂けるように、各セミナー講義を基礎として、幅広く学べるプログラムを毎年検討して提供しています。



継続研修の様子

(テーマ：質改善とコンフリクト・マネジメント)

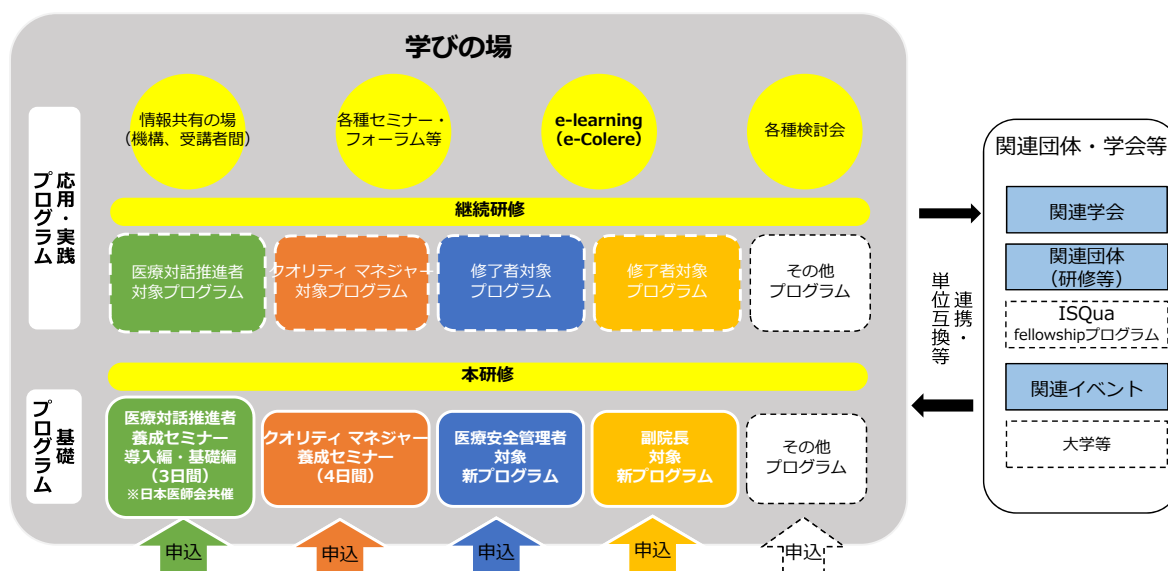


eラーニングサイト

5. 今後の展望

医療の質改善を促進させるためには組織への支援のみならず、その組織に所属する個人がそれぞれの環境や立場に応じて能力を発揮できるような教育が必要です。

今後は、立場に合わせた新たなセミナーを検討すると同時に、セミナー修了者のための継続的な学習の場をさらに充実させ、修了後のフォローの強化など、教育研修全体の体系化を行います。将来的には、機構内だけではなく、他団体や学会等と協力・連携を図り、医療者の皆様がより広く深く、また継続的に学習できるような体制を検討していきます。



医療クオリティ マネジャーの活躍 ～質改善の取り組み紹介～



医療クオリティ マネジャーの院内での活躍の場は様々ですが、セミナーで学習した質・評価に関する知識や分析スキル、マネジメントスキルの考え方を、病院の特性、置かれている状況に合わせて、自院に合った形で取り入れて、質改善活動が行われています。

医療クオリティ マネジャーが院内で活躍することにより、院内での質改善に対する意識向上を促し、病院組織として、より効果的に医療の質向上を図ることが可能になります。

《“医療の質KAIZEN”への取り組み》

水元 亨 さん（医師）／ 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院

水元さんは、自院の病院機能評価受審をきっかけに、多職種で構成する「医療の質向上委員会」を立ち上げ、病院各部署を横断的に評価し、継続的な質改善体制を構築されました。委員会の中で、クオリティ チェックシートやDPCデータの分析、クリニカルインディケータの検討などを行い、病院の全体像や他部署の状況を把握しながら、継続的に医療の質改善に取り組まれています。



《継続的な質改善活動の取り組み》

槇島 洋子 さん（看護師）／ 社会医療法人JMA 東埼玉総合病院

槇島さんが所属する病院では、「安心・安全な医療の提供」の実現に向けて、継続的な質改善活動に取り組むために、院長直轄の部署である『病院機能改善室』が設置されました。槇島さんはその副室長（専任）として組織横断的に活動をされています。例えば、多職種症例検討会の実施や、診療記録の監査・評価などを行い、職員全体で共有し、業務改善や職員の質改善への意識向上に向けて活動を続けておられます。



《質向上に向けた人材育成の取り組み》

河村 武人 さん（診療放射線技師）／ 一般財団法人操風会 岡山旭東病院

河村さんが所属する病院では、専門職集団である病院組織において“医療の質”を高めるためには職種内はもとより職種横断的な人材育成が重要な鍵になると考え、「学習型病院」「共に育つ」というスローガンを掲げて人材育成に注力されています。河村さんはその研修委員会（人材育成センター）の責任者として活動されています。職員一人一人の能力を組織運営に最大限に活かすために発展的な人材育成システムの構築のために尽力されています。



「次世代医療機能評価のアジェンダ」実現に向けての検討状況（評価事業推進部）

創立20周年を機に取りまとめた「次世代医療機能評価のアジェンダ」の「地域医療の質向上に寄与するための評価」を実現させるため、以下施策の検討を進めています（運用開始予定：2018年4月以降）。

（1）ガバナンス機能を重視した新たな機能種別の設定

特定機能病院および大学病院本院を対象にした新たな機能種別「一般病院3（仮称）」の評価項目および評価方法の開発を進めています。具体的には、「組織のガバナンス」「研究」「診療」「教育」といった対象病院に求められる役割・機能に応じた評価内容を検討しています。

（2）病院の役割・機能に応じた評価の重視など、評価方法の見直し

病院の質改善活動をより一層支援するため、認定期間や認定期間中の確認、評価方法について見直しを進めています。特に評価方法については、病院の理念の重要性を再認識し、理念を踏まえた評価、活動実績における確認の徹底など、実態に迫る評価内容を検討しています。

病院機能改善支援セミナー【診療・看護】を開催（評価事業推進部）

評価事業推進部では、病院機能評価の受審準備支援を目的に「病院機能改善支援セミナー【診療・看護】」を開催し、約150名の方々にご参加いただきました（TKP市ヶ谷カンファレンスセンター）。

受審準備病院よりセミナー開催の要望が多かった「症例トレース型ケアプロセス」をメインテーマとし、診療サーベイヤーの宮本恒彦氏と看護サーベイヤーの市川智恵子氏による講演と、横須賀市立うわまち病院の皆様にご協力いただき、ケアプロセス調査の演習を行いました。

全体を通して、ケアプロセス調査の手法や評価項目について、深い理解が得られたとの感想を数多くいただきました。

本セミナーの次回開催については、当機構ホームページ等でお知らせする予定です。



「再発防止委員会からの提言」リーフレット作成について（産科医療補償制度運営部）

産科医療補償制度では、同じような事例の再発防止および産科医療の質の向上を図ることを目的に、「再発防止に関する報告書」を毎年一回取りまとめており、本年3月に第6回の報告書を公表しました。

本報告書において、生後5分までは自分で呼吸をしていたが、その後新生児蘇生処置が必要となった赤ちゃんの事例を取り上げました。そこで、産科医療関係者および妊産婦の皆様がこのような事例を知っていただくために、早期母子接触を含めた新生児管理における注意点等を記載したリーフレットを作成しました。

本制度ホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

(<http://www.sanka-hp.jcqh.or.jp/documents/prevention/index.html>)



妊産婦向け



産科医療関係者向け

ISQua企画セッション・Mindsセミナーのご案内（EBM医療情報部）

患者本位の医療を提供するため、診療ガイドラインを尊重した医療が世界的に重視されてきています。そこで、海外の先進的な取り組みを紹介し、わが国の診療ガイドラインの作成・活用を一層推進するため以下のイベントを開催いたします。ぜひご参加ください。

■ISQua国際学術総会の企画セッション（10月18日）では、国際的な診療ガイドライン作成専門家ネットワーク・GRADEのSchünemann先生、英国国立医療技術評価機構（NICE）のCluzeau先生、国立成育医療研究センターの森先生、京都大学の今中先生より、診療ガイドラインの最新の作成方法と活用の動向についてご講演いただきます。

■Mindsセミナー（10月19日）ではSchünemann先生とCluzeau先生より診療ガイドラインの作成・普及・活用・評価についてご講演いただき、またMindsの取り組みも紹介いたします。
詳細はMindsウェブサイト（<http://minds.jcqhc.or.jp>）をご覧ください。

年報および医療安全情報の公表について（医療事故防止事業部）

医療事故情報収集等事業は、8月29日に平成27年年報を公表しました。年報では、四半期ごとの報告書に掲載していない下記の情報を掲載しています。

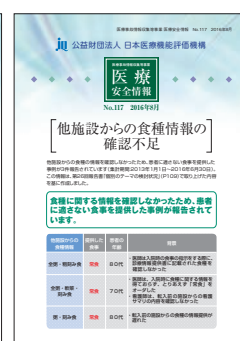
- 報告書で公表している「義務医療機関」の集計に「任意参加医療機関」からの集計を追加した表
- 訪問による現地状況確認調査の報告
- 過去に提供した医療安全情報の再発・類似事例の内容

また、医療安全情報は、7月15日にNo.116「与薬時の患者取り違い」、8月15日にNo.117「他施設からの食糧情報の確認不足」を公表しました。

詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.med-safe.jp/>



No.116（1ページ目）



No.117（1ページ目）

第33回ISQua国際学術総会 東京開催に向けて（総務部）

10月16（日）～19日（水）に東京国際フォーラムで開催される「第33回国際医療の質学会（ISQua）学術総会」まで、あと1ヶ月あまりとなりました。参加登録者数は約1,200名が見込まれています。日本からも例年を大幅に上回る参加登録があり、関心の高まりが感じられます。医療の質・安全の向上について、著名な研究者の講演のほか、400を超えるポスター発表を含め、国内外の参加者の様々な取り組みに関する発表が行われます。海外の最新の動向に日本で触れられる貴重な機会です。みなさまの積極的なご参加をお待ちしています。



ISQua2016 ロゴ

Information

各イベントの申し込み方法、詳細については当機構のホームページのイベント情報をご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

<http://www.jcqhch.or.jp/> 日本医療機能評価機構▶ホーム▶イベント情報

9月～12月

9月	13日	病院機能改善支援セミナー【総合】
	15日	医療対話推進者養成セミナー 導入編
	26日	第2回医療の質・安全に関するオンラインセミナー
	28・29日	第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)
10月	1日	PSP 地域フォーラム (盛岡開催)
	1・2日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編 (岡山開催)
	16～19日	ISQua国際学術総会 (東京)
	19日	Mindsセミナー
	20日	GRADE診療ガイドライン作成ワークショップ
	28・29日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編
11月	12・13日	医療対話推進者養成セミナー 基礎編
	29日	第6回医療政策勉強会
12月	1・2日	第2回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (3・4日目)
	3日	PSP 検査・処置・手術安全セミナー (名古屋開催)
	15・16日	第3回医療クオリティ マネジャー養成セミナー (1・2日目)

詳細は順次掲載されるホームページをご覧ください。

■ 第2回 医療の質・安全に関する ウェビナー オンラインセミナー (Webinar)

医療の質・安全に関するオンラインセミナーをライブ配信します。

[日 時] 9月26日 (月) 18:00～19:00

[テーマ] 地域レベルの医療の質の可視化とシステム再編

[演 者] 今中雄一 (当機構理事、京都大学大学院医療経済学分野教授)

[対 象] 医療者・病院関係者等

[形 式] 45分講義+15分質疑応答
インターネット環境が必要です。
質問はチャット形式で受け付けます。

[参加費] 無料

[申込方法] 事前登録制
当機構ウェブサイト「イベント情報」欄よりお申し込みください。

[問合せ] 総務部 (03-5217-2335)

※Webinarの録画と講演資料は、後日以下のウェブサイトに掲載されます。
<http://www.isqua.org/education/non-english-language-content/japanese-webinars>

患者安全推進ジャーナルのご案内

当機構の認定病院患者安全推進協議会が発行している機関誌です。No.44が発行されました。No.44の特集は「新しいせん妄ケアとアプローチ」です。せん妄ケアに関する現在の状況を紹介するとともに、患者安全にかかわる実践報告として、せん妄に対する医療施設の取り組みを紹介します。

また、別冊「転倒・転落のリスクマネジメント～4つの視点と実践事例～」も発行されました。「患者アセスメント」「転倒・転落防止用具と環境設定」「職員教育と患者参加」「多職種チームによる活動」の4つに視点を当てながら、それぞれ識者の概説と実践事例を紹介します。

● 会員病院 (1,000円+税)

会員病院には毎号3冊を無料でお送りしています。追加購入をご希望の場合は、認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインのうえ、お申し込みください。

会員価格となります。

● 会員外病院 (3,000円+税)

当機構ホームページ>出版・ダウンロードからお申し込みください。



編集後記

10月のISQua国際学術総会に向けて、医療の質・安全に関わる海外の組織との交流が一段と増してきました。学会のプログラム詳細も発表され、世界各国の様々な取り組みを目の当たりにできるのが楽しみです。

評価機構

NEWS LETTER

2016年9月1日発行
(奇数月1日発行)

発行：公益財団法人日本医療機能評価機構 (略称：評価機構)
発行責任者：河北 博文
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1丁目4番17号 東洋ビル
TEL：03-5217-2320 (代) / (編集：総務部情報企画課) 03-5217-2335
<http://www.jcqhch.or.jp/> e-mail: info@jcqhch.or.jp
本誌掲載記事の無断転載を禁じます